

- ・ 考え、判断する子
- ・ 自分も相手も大切にできる子
- ・ 運動を楽しみ、ねばり強く取り組む子

～明るいあいさつがある学校～

市川市立塩焼小学校 児童数 779 名（10 月 1 日現在）
 令和 7 年 10 月 1 日 発行 NO. 11
 TEL 047-397-1231 FAX 047-397-1232

校長 吉田 直美

学校における体験学習とは？

～小さな体験が心を豊かにする学びに繋がります～

「体験学習」この言葉からどんな学習を思い起こしますか。生物の飼育、校外での活動等実際に見たり触ったりという五感を使つての活動をイメージすると思います。

ここでは、しおやき小学校での体験活動の一端として 3 年生の一例を紹介します。

3 年生の社会科で「スーパーマーケット」の単元があります。学習を進めていくにあたり、スーパーマーケットへの見学を進めているところです。3 年担任がスーパーマーケットに連絡を取り予定を調整し当日を迎える・・・と思っているのでは？実は、ここに子どもの体験学習を意図的に取り入れています。子どもがスーパーマーケットに電話をして、見学したい理由をプレゼンし相手方の許可を得て当日を迎えるという取組をしています。たったそれだけの小さな体験とお思いでしょうが、実は多くの学びが隠されています。「自分で電話をする」という体験、「自分たちの思いを伝え理解してもらう」という体験、「相手方と交渉調整をする」という体験、「調整したことを仲間に周知する」という体験です。今までは担任がやっていたことだと思いますが、あえて子どもが「挑戦」することで、知らない相手に電話をする、話をする、交渉するといったスキルを経験できます。加えて、電話するときの緊張感、伝わった時の安心感、うまくいった時の喜びといった気持ちも体験することで心の成長に大きくつながるだけでなく、脳の発達にも欠かせないものだと思います。

今言われている「非認知能力の育成」は、ずっと以前から大切な能力として家庭を中心に学校でも行われてきた教育です。

便利になった世の中だからこそ、今まで当たり前だった子どもの体験が極端に減ってきています。家庭科でも「弱火、中火、強火」といった炎の微妙な大きさがわからない。なぜなら IH 調理という便利さがあるからです。

子どもたちには、不便さと便利さをハイブリッドとして体験し、その両方の経験からより良いものを選択できる力を身につけてほしいと願っています。ぜひご家庭でも、あえて時間のかかる手間のかかることを生活の中で意図的に取り入れてみてください。

ビッグカボチャの重さを当てよう

校長室企画で実施したら約 150 人の児童が果敢に挑戦してくれました。算数の「量感」を育む教育の一端です。9.7 キログラムと 4.7 キログラムが正解でした。給食中の放送でニアピン賞とピタリ賞を発表しました。今度は何を企画しようかな。